

令和2年度 第2回仙台市学校給食運営審議会会議録

- 1 日 時 令和3年2月1日(月)  
午後4時00分開会  
午後6時00分閉会
- 2 場 所 仙台市役所本庁舎2階 第3委員会室
- 3 出席委員 岩井博美委員, 佐々木慎一委員, 丹野久美子委員, 花岡弘二委員, 渡辺博委員  
高橋綾子委員, 堤由美委員, 岡崎博子委員, 佐藤修子委員, 目黒悟委員  
阿部英男委員, 伊藤和裕委員, 加藤恵美委員, 小暮麻美委員
- 4 事務局職員 佐々木教育長, 今村総務企画部長, 西崎健康教育課長, 杉淵給食管理係長  
鎌田給食事業係主査, 齋藤給食事業係指導主事, 横山太白学校給食センター所長
- 5 説明員 西崎健康教育課長, 杉淵給食管理係長
- 6 定足数の確認 議事に先立ち, 事務局より, 本日の出席者が13名(遅れて参加の委員1名を含め, 計14名が最終出席者数)であり, 仙台市学校給食運営審議会条例第5条第2項の規定による定足数を満たしているので, 本会議は成立している旨報告がなされた。
- 7 会長及び副会長の選出について
- |     |  |
|-----|--|
| 事務局 | 委員の改選に伴い, 仙台市学校給食運営審議会条例第4条第1項の規定に基づき, 会長及び副会長を選出していただく必要がある。どなたかご推薦をいただきたい。   |
| 委員  | 事務局から案を提示してはどうか。   |
| 事務局 | 会長には仙台市小学校教育研究会学校給食部会長の目黒悟委員, 副会長には前副会長が再任されているので引き続き丹野久美子委員にお願いしてはいかがか。   |
| 委員  | (異議なし)   |
| 会長  | それでは, これより議長を務めさせていただきます。まず, 仙台市学校給食運営審議会実施要領第6条第1項の規定で, 会議録の署名委員は, 会長及び会長が指名する委員1名となっていることから, 今回の署名委員について, 岩井博美委員を指名する。 |
- 8 議事「仙台市学校給食の概要について」
- |     |  |
|-----|--|
| 事務局 | 次第に移る前に委員の皆さまに報告がある。<br>本審議会においては, 例年は7月頃に開催する第1回審議会にて「来年度の適正な学校給食費について」を諮問し, それに基づいた議論をいただいているが, 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い, 上半期に会議を開催することが困難であったため, 10月に第1回審議会を開催した。開催時期が例年より遅れたこと, また審議会委員の改選を控えていたことを考慮し, 諮問は行わず「今年度の学校給食の現状」について報告させていただいた。<br>そして, 本日, 今年度第2回審議会となるが, 新しい委員が集まる初めての審議会となるので, 今回においても諮問は行わず, 「本市の学校給食の概要」と「今年度の学校給食の現状」について報告させていただく。<br>(資料6頁から14頁に基づき説明) |
| 会長  | 事務局の説明についてご意見やご質問をいただきたい。  |
| 委員  | 次の議事「令和2年度の学校給食の現状について」の事務局からの説明を聞いた後にまとめて意見や質問を行うのはどうか。   |
| 会長  | 他の委員はいかがか。   |
| 委員  | (異議なし)   |

9 議事「令和2年度の学校給食の現状について」

- 会長  
事務局  
会長  
委員
- では、次の議事について、事務局から資料の説明をお願いしたい。  
(資料15頁から25頁に基づき説明)
- 事務局の説明についてご意見やご質問をいただきたい。
- 児童生徒が給食を食す際、昨年度までは机を向かい合わせていたが、現在は机を一方にするなど、新型コロナウイルス感染の予防対策を行い、現場では戸惑いの声がある中で、給食の運営について努力していることがわかった。児童生徒が食材調達の流れや調達方法等を学ぶことも大切であるため、地場産物の供給については今後も継続していただきたいと思う。
- 質問としては、児童生徒が学校で栄養に関する知識を身につけてはいるが、それを日常生活にどのように活かすのかなどの具体的な方法を教えるのは、どこが対応しているのかを伺いたい。例えば、ある民間企業の事業例では、親子料理教室等を行い、親子の絆も深めながら、調理についてなどを学び、生きる力を養っている。学校給食においても、児童生徒の栄養摂取に留まることなく、生きるための教育として考えてもらいたい。
- また、本審議会には、様々な立場の方がいるので、家庭における朝食の欠食習慣化のことや学校で学んだことをどうやって家庭で活かしていくかなど、それぞれの立場で何か取り組んでいることがあれば伺いたい。
- 会長  
事務局
- まず、事務局から回答をお願いしたい。
- 本市の教育局生涯学習課において、PTAの方々等と連携し、小学生とその保護者向けに「親子食育講座」という親子料理教室のような取り組みを行っている。実績としては、平成30年度に44校で実施し、延べ開催回数が75回、参加者数2,635名、令和元年度は42校で実施し、延べ開催回数72回、参加者2,562名、令和2年度は、集計中ではあるが、10校ほどで、感染対策をした上で開催したと聞いている。料理を通じて生きる力を育むことは大切であるので、現在も教育委員会で実施している取り組みを含め、引き続き、様々な方法を検討していきたい。
- 次に、地場産物については、公会計となった現在においても、単独調理校の各学校が地域農家と直接契約し、野菜等を仕入れることができる方法を継続しており、地域農家を通じた食育に係る大事な取り組みだと考えている。
- そして、環境保全米については、「みやぎの環境保全米県民会議」との連携により、本市に限らず、宮城県の学校給食で使用する米飯において、昨年11月の新米切り替えの際に、環境保全米を試行的に提供した。来年度からは、本市の経済局において、学校給食向けの環境保全米の生産支援を予定しており、今後は経済局とも連携しながら、ひとめぼれの1等米や、環境保全米、低農薬米の提供といった取り組みを行うことを考えていきたい。
- 委員
- 前向きな取り組みがあることを確認できた。児童生徒が等しく経験をしていくことが大事だと思うので、親子食育講座の取り組みを強化するなど、将来的な方針について、考えがあれば伺いたい。
- 事務局
- 親子食育講座は主に生涯学習として展開しており、PTAの皆さまと各学校及び教育委員会の三者の連携が不可欠である。コロナ禍で調理をする機会を確保することは難しい状況ではあるが、担当課である生涯学習課とも連携しながら働きかけを進めていきたい。
- 委員
- 青森県弘前市で栽培された無農薬リンゴをはじめ、全国的に低農薬や自然農法という流れがある。給食に使用する食材を選ぶ際にも、そのような視点を取り入れていくことができればよいのではないかと。使用方法や食材の価格等の課題はあると思うが、是非検討していただきたい。
- また、本審議会は、教育委員会の諮問に応じ、調査審議し答申することを主な任務にしているが、今後も審議会の次第にある「その他」にて、学校給食を児童生徒の生きる力に繋げていくための視点について他の委員の皆さまと共有していきたいと考えるがいかがか。

- 会長 様々な立場の方が集まり審議を行う会であるので、忌憚のない意見を出し合い、児童生徒に生きる力を身につけてもらうため、委員の方々に給食について確認できる場になることは望ましく思う。今後の審議会の進め方を工夫させていただく。
- 委員 他に何か意見や質問はあるか。
- 委員 学校行事等で給食を食べる機会があり、美味しくいただいた。栄養量についても、私が食べた献立はバランスよく摂取できていると感じ、給食費の改定が反映されていると実感した。全ての栄養素をバランスよく摂取することは難しいとは思いますが、今後も研究等を継続し、改善していただきたい。
- 事務局 また、先日、単独調理校と給食センター対象校の地場産物の使用頻度の差について、地域の集まりで話題になった。給食センター対象校では多くの食材を調理するため、地場産物の使用頻度において課題があるのではと感じている。単独調理校は地元に基づいた食材を使用していると思うので、今後は双方の差をできる限りなくしていく検討をお願いしたい。
- 事務局 国の地場産物の使用割合の目標値は30%以上となっており、単独調理校及び給食センター対象校も同じ目標としているが、単独調理校で行っている地域農家との直接的な契約は給食センター対象校にはなく、給食センターにおける大量調理は同じ規格の食材を大量に調達するため、単独調理校と同様に取り組むことは難しい面もある。そのような状況ではあるが、給食センターでは、旬の食材等で地場産物のものを多く取り入れるなどの工夫を凝らしており、今後も継続していきたい。
- 委員 仙台牛を取り入れた給食が好評だったと聞いている。児童生徒が喜ぶ給食の検討を引き続きお願いしたい。
- 委員 2点質問がある。
- 事務局 1点目は、資料20頁の学校給食の改定について、現場の声は概ね好評だったという説明だが、マイナス的な意見があったかを伺いたい。
- 委員 2点目は、22頁の学校給食における給与栄養量に関して、栄養量が基準値を充足しなかった経緯の最後に、食べ慣れない献立のため、児童生徒等から戸惑いの声も寄せられたとあるが、具体的にどのような声が上がったのか。また、児童生徒が進んで食べることができ、栄養量の確保もできる献立を研究中ということだが、23頁に栄養士部会の献立検討会等で研究しているとあり、この検討会について具体的に教えていただきたい。
- 事務局 マイナス的な現場の声としては、給食の提供量が増えたことに伴い、残食量が増加したことなどの課題があげられている。
- 委員 具体的な戸惑いの声については、ポークカレーの具材としてレバーを使用した際に、家庭等で食べ慣れない食材のためかレバーを異物混入だと疑われたという事例があり、レバーの使用は鉄分を効率よく摂取できるが、使用方法を改めて研究する必要があると感じた。
- 委員 なお、資料23頁に記載した献立の研究の補足説明になるが、平成15年に文部科学省から、給食で豆を摂取するために、豆製品ではなく、豆類としての摂取基準量が示された際に、人気メニューであるカレーに豆類を入れて提供したところ、カレーの人气が下がるという結果に繋がった。それから海外のメニューも含めて献立を研究し、「チリコンカン」というメニューに行き着いた。チリコンカンも最初から児童生徒に受け入れられたわけではないが、少しずつ分量を調整し、現場の声を引き上げるなどの研究を重ね、現在では栄養価の高い定番メニューとして確立することができた。そのようなメニューの一つでも多く作り上げたいと考えている。
- 委員 献立検討会の具体的な内容は、栄養教諭・学校栄養職員部会長である岡崎委員に回答をお願いしたい。
- 委員 カレーに入れたレバーを異物だという声が上がったことについては、食材の割合等を調整し、児童生徒が食べやすい分量で提供していくこと、また、段階を踏んで提供していくことが大切だと改めて考えさせられる事案である。学校によって差はあるが、本校の場合は、最初は豚肉とレバーを混ぜて揚げ煮を作っていたが、食べ残しが少ないので、現在はレバーのみで提供している。割合や段階を踏むことなど、試行錯誤する必要がある。

また、チリコンカンにて大豆を摂取することについてだが、現状ではカレーに豆製品が入っていても、児童生徒の受け入れがよいという学校もある。根気強く栄養摂取の大切さを伝えつつ、児童生徒に不快な思いをさせないように努力し、給食を提供していくために栄養教諭・学校栄養職員部会において献立の研究を行うが、今年度はコロナ禍ということもあり、部会員が集まったの研究をできていない。コロナが落ち着き、研究が再開できることを願う。

会 長 他にご意見ご質問はあるか。  
委 員 (特になし)

#### 10 その他

会 長 では、次第の6「その他」に移る。感想等でも次回の審議会に繋がるので、委員の皆さまから何かないか。

委 員 様々な数値を算出し、児童生徒の健康を管理していることがわかったが、学校における給食を食べる時間については、十分な時間を確保できていないのではないかと。もちろん、用意をする、食べる、片付ける、を含めて食育だが、その中で用意と片付けに重点がおかれ、食べる時間が不足していると感じる。他の授業の時間との兼ね合いもあり、難しいことだとは思いますが、給食の時間に献立に入っている地場産物の説明等をする時間はあるのか。

会 長 食育の充実、食べる時間に対するご意見だが、出席している委員の中で学校関係者に回答を願いたい。

委 員 学校の給食時間の状況について、小学校と中学校で違いはあるが、小学校の低学年は、入学当初に給食の準備等を身につけるためにスクールサポーターや地域の方に支援をいただいている。中学生は小学校の時の経験があるため、給食の準備はスムーズにできている。準備が早く終われば、食べる時間の確保に繋がり、本校は中学校だが、20分は確保している。

また、給食センター対象校は、給食センターから定期的に届く声のお便りというものや校内で放送し、児童生徒に献立の内容等を伝えている。単独調理校は、各学校に栄養教諭等が在籍しており、食育に関する様々な指導や指示を行っている。今後も給食に係る準備、片付けをできる限り早く行えるように工夫していきたい。

委 員 小学校も単独調理校や給食センター対象校等の学校ごとの違いはあるが、栄養教諭等が当日の献立で工夫した箇所や地場産物の紹介等を記載した献立表や食育に関する通知書を各クラスに定期的に配布する学校もある。

また、コロナ禍の前は、給食の際に各クラスの日直が当番制で教室の前に出て、献立表や食育に関する通知書を読み上げ、クラス全体で共有し、食事をするところもあった。給食委員の児童はメニュー等を校内放送で伝えることも行っている。

現在は新型コロナウイルス感染症を予防するため、学年ごとに下膳の時間を調整するなどの工夫をし、衛生面に配慮しつつ、食事の時間も十分確保できるように運用している状況である。

会 長 他にご意見ご質問はいかがか。

委 員 衛生管理に関して、細菌検査等を行っていると思うが、検査結果を取りまとめているのかを伺いたい。検査結果に不備等が生じた場合に不明な点や質問があれば、薬剤師会に問い合わせさせていただいて構わないので活用してほしい。

事務局 年に数回報告させており、不備があった場合には、原因を究明した上で早急に対応している。

委 員 大腸菌に関する検査の方法は複数あり、検査方法によっては大腸菌の存在自体を示すものや残留物があることにより大腸菌が存在しているなど、結果が微妙に異なることもある。検査方法や安全性に関して問い合わせがあれば、できる範囲で協力したい。

会 長 大変心強いご意見をいただいた。他にご意見等はあるか。

委 員 新型コロナウイルスの影響で給食後の歯磨きをやめている学校があると聞いている。歯ブラシを洗浄した水、または蛇口から感染するリスクがあるという論文も出ているが、明確な証拠はないのが現状である。

今年度の歯科健診の結果は集計中だが、歯茎の状態は悪化しているという情報があり、学校での給食後の歯磨きをやめていることも一因ではないかと歯科医師仲間と共有している。実際、学校の水道近辺で、他人との距離が近くなってしまったり、唾液を出したりということにより、学校での歯磨きの実施は難しいかもしれないが、学校で実施できないのであれば、そのフォローとして、各家庭にそれを周知し、家庭での歯磨きの励行を促していただきたい。

会長

本日出席されている学校関係者の皆さまには、今の意見を近隣の学校でも共有して、保護者への周知等を実行するようお願いしたい。

事務局

関東における水道の蛇口を原因とした感染症拡大という一部の状況が切り取られたような報道について、歯科医師会の先生方とも情報共有している。

一方で、学校の水道近辺で他人との距離が密接するリスクについても学校や保護者の皆さまからご意見をいただいている。学校の状況や児童生徒の口内環境の情報等、各学校を通じて家庭に周知することにより、学校の取り組みだけに限らず、家庭を巻き込み、より効果が得られるようなものを検討していきたい。

会長

他にご意見ご質問はあるか。事務局はいかがが。

事務局

今後の予定について説明したい。次回の本審議会は、来年度夏頃の開催を予定している。次回も多くの委員の皆さまに参加していただけるよう調整していく。今後とも学校給食の充実、食育の推進にご指導をお願いしたい。

以上

令和3年 3月 9日

署名委員 仙台市学校給食運営審議会会長

目黒 悟

仙台市学校給食運営審議会委員

岩井博美